

第26回柏原市障害者自立支援協議会 議事録

司会：今日は、忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。ただいまから第26回柏原市障害者自立支援協議会全大会を開会いたします。最後までよろしくお願いいたします。

本日の進行につきましては委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

委員長：みなさんこんにちは。年が明けて1か月が経過しますが今年もよろしくお願いいたします。それでは次第に沿って進めてまいります。資料1 令和7年度柏原市障害者自立支援協議会の事業計画案につきまして事務局よりご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局：では、柏原市障害者基幹相談支援センターより報告させていただきます。

皆様、資料1 令和7年度柏原市障害者自立支援協議会事業計画案をご覧くださいませでしょうか。順番に報告させていただきます。まず計画1 基本理念といたしましては、「障害の有無によって分け隔てられることなく、すべての人が基本的人権を有する個人として尊重され、その尊厳にふさわしい暮らしが実現できる共生の地域社会づくり」ということを、基本理念としております。

続きまして計画2の重点課題といたしましては、3つあげさせていただいております。

1つ目が、地域の障害福祉に関する関係者による連携及び支援体制の構築といたします。

2つ目が、柏原市障害者自立支援協議会の運営の強化を図りたいと思います。

3つ目が、柏原市障害者計画等の推進を行っていききたいと思います。

続きまして、計画3 具体的な取組ですが、3つ挙げております。

1に、課題抽出、課題整備、課題評価のシステムを運用していきます。

2に、自立支援協議会における各会議を実施していきます。全体会は、年2回開催予定となります。定例会議ですが、こちらにも研修会を含めまして、年2回開催予定としております。

続きまして、各専門部会ですが、相談部会、就労部会、こども部会、くらし部会を定例で行う予定としております。相談部会には、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについての協議等を含んで検討していききたいと思います。こども部会では、医療的ケア児への支援についての協議等も含めて検討していきます。

そして、事務局会議を毎月開催し、課題評価システム検討会議を兼ねて検討していききたいと思います。

3に、専門部会ごとに事業計画を作成いたしまして、計画に基づいて部会を運営していききたいと思います。この部会の運営に関しましては、(1)で書いております課題抽出、課題整備、課題評価のシステム等を使用して行っていききたいと思います。

計画4のその他としまして、大阪府が実施します地域自立支援協議会情報交換会への出席を考えております。

以上が来年度の計画案となります。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：ありがとうございました。何かご意見やご質問等はございますか。よろしいでしょうか。ではありがとうございます。次に次第2ですね。では部会活動報告につきまして、事務局より報告いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局：地域生活支援センターかしわからは、相談部会の報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。資料2-1をご覧ください。本年度の活動としましては、主に例年同様、事例検討をメインに行っております。その他の取組としては、4月に社会資源一覧表の見直しを行っております。こちらについては相談部会の方で2年程前から作成しております、年に1回は情報更新していくことになりましたので、障害福祉サービス事業所についての情報やサービス以外でも、活動できそうな資源について情報交換を行いまして、資料の更新をしております。6月には、通学困難児童について情報交換を行っております。こちらについては、前年度の部会で、支援学校に通う子供さんについて通学保障の課題が上がっております、それに対する取組になります。情報交換の方では、相談事業所で把握している通学困難な児童について事例を出し合いまして情報の共有をしております。7月と12月には、市役所にお尋ねしたいQ&Aということで、令和6年度の報酬改定について、質問をそれぞれ参加者の方から挙げてもらいまして、市の担当の方にご回答いただいております。9月は、にも包括を行っております。訪問看護事業所が関わっているケースを出してもらい事例検討行ったのと、改めて、にも包括の目的について確認を行っております。

本年度の部会は残り2回開催される予定となっておりますが、今月の部会では、今年度の取組についての振り返りと、次年度の計画を行う予定となっております。3月には、今年度2回目のにも包括が開催される予定となっております。以上です。

続いて、くらし部会について報告させていただきます。自立生活支援センターさんねっとです。よろしくお願いいたします。資料2-2をご覧ください。令和6年度のくらし部会の内容は、障害の方達の居場所づくりと12月の障害者週間の啓発活動を行いました。障害者の居場所づくりとしての取組は、9月に開催しました障害者のための勉強会です。テーマは、携帯電話に多いトラブルの対処法。講師は、公益財団法人関西消費者協会消費生活相談員をお招きし、ラインアプリなどに関するトラブルをまとめて説明してくれました。13の方が参加されました。

続いて、啓発活動の今年度の取組は、12月3日～9日の障害者週間に合わせて、柏原市役所1階フリースペースにて応募作品の掲示を行いました。作品募集を広報かしわらに掲載していただき、障害のある一般市民の方と、柏原市内の障害者事業所に作品をお願いしまして、計21作品を掲示しました。障害者の勉強会と障害者週間啓発活動の取組については、

部会定例会議で振り返りをしており、2月の定例会では、来年度の活動内容を検討する予定にしております。活動実績につきましては、資料2-2に記載しておりますので、詳細については資料でご確認いただければと思います。以上です。

委員長：はいありがとうございます。続いては就労部会お願いいたします。

事務局：柏原市社会福祉協議会ぴあセンターです。よろしくお願いします。就労部会の活動実績報告をさせていただきます。就労部会は、2カ月に1回、定例会を開催しておりまして、今年度に行います研修会での企画やホームページに上げている事業所一覧の情報更新、また毎回の事例検討などを重ねております。

研修会は、3月18日にCステップ様に講師をいただきまして、その役割と就労支援の連携について、就労に携わる事業所向けの研修を企画しております。今年度、新たに新設されました事業所にもご案内を差し上げております。私からは以上です。

委員長：ありがとうございます。では、続いてはこども部会お願いいたします。

事務局：こども部会の報告させていただきます、なにわの里です。こども部会は、コア会議と言う形で、部会よりもさらに中心のメンバーで、具体的に検討して進めていくという形をとっております。大きな取組としては、例年と大きく変わりませんが、7月に就学を控えた保護者、支援学級や支援学校を検討している方を対象に、就学説明会を開催いたしました。今年は40名の保護者の方に参加いただきまして、認知度が広がって、参加者の方が徐々に増えているかなという印象です。

9月の部会は、医療的ケア児を地域で支援する協議の場という形で、今回は、大阪府の医療的ケア児支援センターの望月先生をお招きして、大阪府の医療的ケア児の現状や、今後についての講演をしていただき、その後グループワークを行って柏原市のケース検討やディスカッション、現状の共有を行いました。

この際に、地域課題の抽出を目的として、つぶやきシートというものを配布させていただきました。柏原市で関わっている方を対象に、柏原市で感じる課題等があれば、そのシートを使って課題をあげていただく形をとって。過去にも何度か実施したことがあるのですが、久しぶりにこの形を使って課題の抽出の機会を設けさせていただきました。いくつか返信がありまして、変わらない部分や同じような課題が多いかなという風に思いました。

10月には就学前座談会というイベントを開催しております。柏原市内の年中・年長児の保護者の方を対象に、実際に支援学校や支援学級、通級指導教室等を利用されている保護者の方をお招きしまして、実際はどんなふうに生活されているのか、リアルなお話を聞く機会を開催しました。今年は非常に参加者が少なくて、5名の保護者が参加されました。来年度はこの辺りを分析した中で、どういう形でするのが効果的か検討していきたいと思います。

2月には年内最後の部会を予定しております。大きな内容としましては、今年度の部会の取組報告とグループワークを進めていくことを予定しております。以上となります。

委員長：はいありがとうございます。今のご報告の中でご意見、ご質問等ございますか。

副委員長：一つはCステップについてわからないので、教えていただければなと、もう一つは、つぶやきシートについて、もう少し詳しく教えていただけますでしょうか。お願いします。

事務局：Cステップの役割について簡単に説明させていただきます。Cステップにつきましては、障害者雇用であったり、一般就労を目指すための支援を行っていく機関ということで、実際に就労A型を利用されている方や雇用はされていないが一般就労したいという方の相談を受けて、ハローワークや就ボツ、生活困窮担当の方や、就業支援センターの職員さんとかと連携をとりながら企業とも連携をとって、就業される方に寄り添って面接や見学、体験、そして就労された後も寄り添って指導をしていただける機関になっております。ざっくりとした説明になりますけど、障害者の方が一般就労に向けて進むため寄り添っていただける機関ですので、今回の研修会では、相談支援員や就労A型の事業所にも、Cステップの役割を理解していただいて、今は就Aに頑張っているけれども、障害者雇用を目指したいなという方に、より上を目指してもらうためには、どういう支援をしてどういう機関と連携していけば、本人さんがより障害者雇用を目指すのかなというところを分かっていることを中心に研修会を行いたいと思います。以上になります。

つぶやきシートになりますけれども、市内と市外の意見ですが、特に柏原市内で活動されている方からすると、発達相談や医療機関で相談する場所がすごく少ないと感じている。一方で、他市の参加者の方からは、柏原市では発達相談や医療がすごく充実しているのでうらやましいという意見があったりして、感じ方が違うのだなと思いましたが、そのような声があって、もう少し増やしてほしいと言う声と、柏原市のように、うちのところも増やしていきたいというような感想もいただきました。以上になります。

委員長：ありがとうございます。専門職として柏原市とは充実しているでしょうか。

事務局：他市の現状をそこまで把握はしてないですけども、どこも非常に少ないというか、かなりどこもいっぱいというか、非常に繋がりにくいというような現状があるのかなとは感じております。柏原も同様だなとはっております。

委員長：ありがとうございます。他にはありますか。相談部会とか、いろいろな情報交換が行われているのですけど、だいたいどのぐらいの方が参加をして、いつも何時から

していますか。

事務局：いつも第3水曜日の1時30分から行いまして、だいたい1時間。長い時で3時30分まで、2時間ぐらいやっていたりします。参加事業所は、柏原市だけで8事業所ぐらい、八尾の事業所からも参加させてほしいと希望があって、そちらからも2〜3事業所参加されていますので、10名〜15名程度で行っている形になります。

委員長：ありがとうございます。せっかくなので学生を連れてきたいと思ったのですが、水曜日はちょっと大学が出られないので、ちょっと難しい時間でした。事例はどんなのがあるのか、やっぱりいろんな角度から見れるというか。参加はできますか。

事務局：そうですね。実習生が参加される場合もあります。

委員長：ありがとうございます。他に何かございますか。

今、大阪にはありませんが、兵庫県で相談支援専門員の現任研修があって、それを担当しているのですが、1回につき80人位の方がいて、それが年間4クールありますので、概ね250〜600人位なのですが、そこでいつも「自立支援協議会ってどのくらい知っていますか」って聞くと、だいたい3分の1強くらいが知らない。名前は聞いたことあるけど何をやっているかわからないって言われるのと、あと、他にグループワークやったら自立支援協議会の悪口が始まっちゃったから、それをやめてくださいと。「言っても無駄だ」とか「あそこは誰々が牛耳っている」とかが始まってしまって、それはやめてくださいということで。今年度から始めたのが「自立支援協議会を調べましょう」と、何をやっているのから始まって、そしてこういうケースがあれば自立支援協議会に繋ぐのだよと言ってはいるんだけど、現任研修を受けている方ですら、自立支援協議会がわからないということが結構あって、柏原市はどうなのかなとも思うのですが、基幹型が動いていて、自立支援協議会の活動をもっと広く、こっから発信していかないと、受け入れられないのかなと現任研修をしていて思ったところでした。事業所の方もどれくらいご理解できているか、ぜひ出席者の方も「事例検討会をやっているから来てごらん」と声をかけていただけるなど、そう言うことをしていただければ活性化させていけるのかなと思いました。大阪府も自立支援協議会の活性化を目標にしていたかと思うので、今後の課題かなと思っています。

あと別件で、セルフプランを大阪府は今減らせ減らせと言っていますけどね、今どういう状況になっていますか。事前に行ってなかったから感覚で結構です。

事務局：具体的な数字は今わかりかねますが、感覚的に、子供さんと就労系サービスだけの人、就Bや就Aだけの人が多いです。今、計画相談を受けてくれる事業所が少ないという現状もありますが、サービスとして、あまりプランニングを必要としないサービスの方はセ

ルフが多いなという印象があります。

委員長：ありがとうございます。なんか児童関係は、保護者達がネットで調べて直接行くから、プランを結ばなくても個人でやっちゃうみたいことが結構多いみたいで、柏原だけじゃなくて全体的なことなのですけども。なんか一時はね、セルフプランで別にいいじゃないのって流れだったけど、急にセルフプランを減らせて言い始めてきたので、現場の方は大変だろうなと思っています。数字で出てきますからね。市区町村ごとに並べられて、なんか公開処刑みたいな感じになって、グラフみたいにされると何か悪いみたいな気持ちになる。別に悪くはないと思いますし、それぞれの事情があるかと思うので。児童はセルフプランが多いとのことで、それは今の情報化社会の中では直接行ってしまうということで。ありがとうございます。すいません、少し話が流れました。他に何かございますか。

副委員長：先生のセルフプランのお話で、うちも就 B で、就労型支援を使ってらっしゃる方はセルフの方が結構いらっしゃるのですけれども、やっぱり柏原市でありがたいなと思うのは、市役所の人がちゃんと担当でついてくれる。計画相談がついていても込み入った話のときや担当者会議とかにも出てくださっている、検討してくださっている。実はそれがすごくありがたい。他市から来られる方もセルフプランの方いらっしゃいますけど、支援が始まったら市役所は知らん顔で。セルフプランがいいか、計画相談がいいのかというのは、人それぞれなのかとは思いますが、柏原市の体制はありがたいなと。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。それでは他に何も無いということで、次の次第に進めさせていただきたいと思います。次は次第 3 虐待相談件数の上半期ですね、実績について報告をお願いします。

事務局：はい、お手元の資料ですね、柏原市障害者権利擁護サポートセンター年間実績をご確認ください。

令和 6 年 4 月 1 日～令和 6 年 9 月 30 日までの件数をまとめたものになります。

①の通報件数としては 9 件ありまして、虐待種別としては父母や配偶者など養護者虐待が 8 件、グループホームでの施設従事者虐待が 1 件ありました。③の疑われる虐待行為として身体が 7 件なのですけども、うち 5 件は夫婦喧嘩からお互い手が出るようなケースがありました。1 件は父親と喧嘩し父親から蹴られるケース、もう 1 件はグループホームでご本人さんがちょっと暴れてしまうことがあって、それは職員が、制止する時に痣ができてしまうケースがありました。心理 1 件は、親子の口論から母が本人に包丁突きつけるケースがありました。

④の相談・通報者の内訳は、警察官から 5 件、施設従事者から 2 件、家族 1 件、その他 1 件は、他市の行政機関からの報告となります。障害種別としては、知的が 5 件、精神が 4 件

です。それぞれのケースについて訪問や聞き取りなどの調査を行い、事実確認した結果、虐待認定としてのケースは 0 件になりますけど、いずれのケースについても、継続した支援を実施しております。

成年後見制度の利用に関する事項ですけども、全体に相談としましては 2 件、障害種別としては精神の方が 1 件、1 件は不明とありますが、これは 3 障害に該当しないケースということで、いずれも病院からの相談ケースとなっております。私から以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。何かご質問とかありますでしょうか。わかる範囲でいいんですが、前年度比とかわかりますか。

事務局：すいません。今すぐにはわかりません。

委員長：ありがとうございます。大阪府全体で言うと増えているという報告を聞いていて、ただ大阪は、通報件数も多いので、その分発見が多いということなんで、大阪がとりわけ虐待が多いわけではなくて、通報件数が多いという中で発見される可能性が高いということになっていると思います。この間、ある勉強会で「通報するんですけど認定されませんよね」と。だから通報を避ける傾向になる。間違っていたらどうしようとか、遠慮が働くこともあるみたいで、ここは 0 だったのですけども、別に合っていても間違っているのもいいのですよと言うのですけども、通報件数からして認定数が少ないことが逆に通報を遠慮させているようなことが話されていて、なるほどなと思って聞いていました。引き続きどうぞよろしくお願い致します。それでは他に質問とかありますでしょうか。

次、その他いきたいと思います。その他事務局お願いいたします。

事務局：事務局より報告させていただきます。昨年 7 月に開催いたしました自立支援協議会全大会において、障害者差別解消支援地域協議会の役割を自立支援協議会に付加することをご承認いただきました。今年度の現時点で、市役所に寄せられた差別案件が、1 件ありましたので、こちらの方報告させていただきます。

昨年の 5 月頃、市役所にご本人さんから電話がありまして、毎朝通勤に近鉄電車を近鉄国分駅～高安駅まで利用されている方で、ご本人は右股関節の障害があり、杖を使用している。毎朝電車に乗っているときは、乗客の方がたくさん乗っているんで、座ることができず、優先座席の近くに立つということなのですが、すでに座っている乗客の人に「目の前に立つな。目障りだ。」と直接言われる、舌打ちまでされると言うことがありました。ご本人さんが馬鹿にされていると感じて、毎日つらい思いされていることで、相談できる窓口がどこかにないか教えてほしいですとの内容でした。市役所としては、近鉄国分駅に本人の承諾を得て電話をし、内容をお伝えしました。近鉄電車の方では、現場を見ていないので対応は難しいが、朝、近鉄国分駅の駅員がご本人さんと一緒に乗車する対応ならできるかなという回答を得

ました。管轄が八尾駅になるので、八尾駅にご本人から直接連絡するよう伝えてほしいとの回答でしたので、ご本人に電話をしまして、八尾駅に連絡するよう伝えました。その後、ご本人さんからは連絡がなかったのでどうなったのかはわかりませんが、このような案件がありましたので報告させていただきます。障害者差別解消法の合理的配慮には当てはまらないかなと思いますけど、報告させていただきます。

続きまして、研修会の案内をさせていただきたいと思います。資料としては「障害を持つ成人期のお子さんのいる保護者の体験談」の開催についてと書かれた案内の方をご覧くださいのですが、自立支援協議会の定例会としての位置づけで、研修会を2月20日木曜日にさせていただきたいと思います。今回は、アクト大阪さんにご相談させていただきまして、所属のペアレントメンターの野村路代さんに来ていただいて、体験談を語っていただこうと考えております。大阪府ペアレントメンターとは、発達障害があるお子さんを育ててこられた保護者の方で、子育てに関する体験談の紹介や親目線での情報提供等の活動を通して、発達障害のお子さんがいらっしゃるご家族をサポートされたり啓発活動をしていただいている方々でありますけど、今回の野村さんも自閉症があるお子さんを育ててこられた体験談を今回語ってくださるということで、自閉症がわかった経緯であったりとか、進学や就職など、もう20歳を超えておられるのですけども、そのような進路の選択、ライフステージの変わり目など、どのような悩みがあり、どういった機関に相談されのか、どんな決断をしてきたとか、やっぱりそれでよかったこととか、ちょっと悔やまれたことがあったりとかという風に、実際にお子さんを育ててこられたお母さんの目線で体験談を語っていただいて、障害福祉サービス等も使ってこられたお母さんでありますので、どのような思いで障害福祉サービスを使われてきたとか、こんなことを期待していたとか、実際使われてどんな感じにお子さんが成長されたとか、変化があったとかということを分かっていたいただければと思ひまして、それを自立支援協議会の参加事業所と、市内の事業所と、行政関係と、障害児に関わる方に案内をすでに送らせているのですけども、この体験談を参考にさせていただいて、日頃の業務等に役立てていただきたいなと思います。以上になります。

委員長：ありがとうございます。他に何かございますか。よろしいでしょうか。特にないようですので事務局の皆様には、委員皆様からのご意見をご活用いただきたいと思います。では司会の方お返ししたいと思います。よろしくお願いします。

事務局：ありがとうございます。本日の案件を全て終了しましたので、これをもちまして自立支援協議会を閉会させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。